山形新聞　2026.11.10

命の大切さ 中高生訴え

山辺 安達峰一郎世界平和弁論大会



中高生が命の大切さなどを訴えた弁論大会＝山辺町中央公民館

安達峰一郎記念世界平和弁論大会が8日、山辺町中央公民館で開かれ、県内外の中高生11人が平和の大切さや環境問題、地域医療の重要性などを訴えた。最優秀賞は、中学生の部で佐藤百華さん（山形大付属1年）、高校生の部で新井彩生さん（富山県・富山国際大付属2年）が選ばれた。

全国から中学生100人、高校生30人の応募があった。原稿審査を通過した中学生6人、高校生5人が出場した。

佐藤さんは「キャップにこめる 小さな命のバトン」の演題で発表。途上国の子どもたちにワクチンを届けるためのペットボトルキャップの回収に取り組んだ経験を踏まえ、小さな取り組みを積み重ねることで誰かの生きる幸せにつながると訴えた。新井さんは「海と人を繋ぐ架け橋」と題し、富山県で初の「高校生ライフセーバー」となり、未来に向け、命を守る安全教育だけでなく、自然を守る大切さを強調した。

山辺町出身の国際法学者で、常設国際司法裁判所（オランダ）の所長を務めた安達峰一郎博士の精神を受け継ごうと、山形大認定都市・地域学研究ユニットや山辺町などが主催し、16回目。最優秀賞以外の主な結果は次の通り。（洋数字は学年）

◇中学生の部▽優秀賞　山内勇也（山形三1）▽特選　原武奏太（佐賀県・東明館1）

◇高校生の部▽優秀賞　松本深愛（長崎県・九州文化学園2）▽特選　丹野心里（山形西2）

（柳沢明子）

河北新報　2026.11.10

R8.11.10 河北

外交官・安達の精神継承
平和の思い熱く
中高生弁論大会

山形・山辺

山形県山辺町出身の国際法学者で外交官の安達峰一郎（1869～1934年）が貫いた非戦の精神を受け継ぐ第16回世界平和弁論大会が8日、同町中央公民館であり、中高生が平和な世界の実現に向けて自分たちができることを熱く語った。

全国から中学生100人、高校生30人が応募。事前審査を通過した中学生6人、高校生5人がこの日の本選に進み、実体験や自分で調べたこと、家族から聞いたことなど織り交ぜながら、持ち時間の中で自分の考えや思いを訴えた。



平和な世界の実現に向けて熱弁を振るう参加者

安達は国家間の紛争を武力ではなく、国際法と外交努力によって解決することを提唱。アジア人として初めて常設国際司法裁判所の所長を務め、「世界の良心」とたたえられた。

大会は山形大認定都市・地域学研究ユニット、山辺町などの主催。

上位入賞者は次の通り。（敬称略）

【中学生の部】最優秀賞 佐藤百華（山形大付1年）▽優秀賞 山内勇也（山形三1年）▽特選 原武奏太（佐賀・東明館1年）

【高校生の部】最優秀賞 新井彩生（富山・富山国際大付2年）▽優秀賞 松本深愛（長崎・九州文化学園2年）▽特選 丹野心里（山形西2年）

中高生11人 堂々と意見発表

山形・山辺 安達峰一郎世界平和弁論大会

R8.11.10 毎日



大会で堂々と意見を述べる高校生の参加者＝山形県山辺町で

第16回安達峰一郎記念世界平和弁論大会（山形大学認定都市・地域学研究ユニットなど主催、毎日新聞山形支局など後援）が8日、山形県山辺町で開かれた。全国各地から参加した中高生が堂々と意見を発表した。

中学生の部に100人、高校生の部に30人の応募があり、原稿審査を通過した中学生6人と高校生5人が大会に参加した。けん玉遊びや水泳、家族の介護といったそれぞれの身近な体験をもとに、地球環境問題の解決や世界で紛争をなくす道、人口減少問題への対応策などを論じた。

審査の結果、最優秀賞には、中学生の部は山形大付属中1年の佐藤百華（ももか）さん、高校生の部は富山国際大付属高2年の新井彩生（あやき）さんが選ばれた。

安達峰一郎（1869～1934年）は山辺町出身の外交官で、国際連盟の日本代表を務めた。大国・小国の区別なく公平に国際紛争の解決に努め、各国から「公正と正義の人」と評価された。31年には常設国際司法裁判所長に就任した。【岩崎誠】

毎日新聞　2026.11.10

朝日新聞　2026.11.12

業界　朝日　2026年（令和8年）11月12日（木）　第3種郵便物認可

平和実現へ つなぐ思い

ボトルキャップ集め1万3600個「一歩踏み出して」



中学生の部
佐藤百華さん

山形大学認定都市・地域学研究ユニットと町などの主催。16回目の今回は全国から130人の応募があり、予選を通過した中学生6人、高校生5人が登壇した。

佐藤さんは、キャップが途上国の子どもたちの命を守るワクチン代になることを知り、仲間や家族らと1万3600個を集めた。「自分にできる小さいことを積み重ねていけば、誰かの生きる幸せにつながる」として、必要なのは一歩を踏み出すことだけと述べた。「たくさんの人たちに一歩を踏み出してもらえれば」との思いを込めたという。

新井さんは、富山県は水難事故での死者数が全国でも多いという実態を挙げ、「水の恵み」と「水の危険」は別々に考えてはいけないと主張。ライフセービング発祥地・オーストラリアの水辺の安全教育を紹介し、自然と命の両方を守るために、自身は「海と人をつなぐ架け橋」になると誓った。受賞後は「日本は水に対する危険意識が足りない。一人ひとりが考え、命を守ってほしい」と話した。

審査員を務めた阿部康子さん（元東北文教大学短期大学部教授）は「弁論とは自身の体験を通じて、生き方を提案していくこと」との言葉を贈った。

両部門2位の優秀賞と3位の特選は次の通り。（敬称略）

【中学生の部】優秀賞　山内勇也（山形市立第三1年）▽特選　原武奏太（佐賀・東明館1年）

【高校生の部】優秀賞　松本深愛（長崎・九州文化学園2年）▽特選　丹野心里（山形西2年）

安達峰一郎を記念 弁論大会 最優秀賞



高校生の部
新井彩生さん

常設国際司法裁判所長を務め、平和の実現に尽くした安達峰一郎（1869～1934）を記念した世界平和弁論大会が8日、出身地の山辺町であった。最優秀賞は、中学生の部では、ペットボトルのキャップ集めを通じて得た思いを訴えた山形大学付属中学校の佐藤百華さん（1年）、高校生の部では、富山県初の「高校生ライフセーバー」としての視点で語った富山国際大学付属高校の新井彩生（さき）さん（2年）が選ばれた。（蛭牟田繁）

ライフセーバー「日本は水への危険意識が不足」

読売新聞　2026.11.14

（第3種郵便物認可）　2026年（令和8年）11月14日（土曜日）

平和への思い 中高生訴え

R8.11.14 読売

山辺で弁論大会

最優秀賞 新井さん 佐藤さん

中高生が平和への思いを訴える「第16回安達峰一郎記念世界平和弁論大会」（山形大、山辺町など主催、読売新聞山形支局など後援）が8日、山辺町山辺の中央公民館で開かれた。



高校生の部で最優秀賞を受賞した新井さん

常設国際司法裁判所（現国際司法裁判所）でアジア人として初めて所長を務めた外交官の安達峰一郎の平和の精神を受け継ごうと、安達の故郷である同町で2011年に始まった。



中学生の部で最優秀賞を受賞した佐藤さん（8日、山辺町山辺で）

全国から集まった約130件の応募の中から、論文審査を通過した中学生6人と高校生5人が登壇し、スピーチした。

中学生の部は山形大付属中（山形市）1年、佐藤百華さんが最優秀賞に輝いた。ペットボトルのキャップを集めることで、子どもを救うワクチンの支援が出来ることを知り、「エコキャップ運動」を始めた。一人では解決できない大きな課題であっても、「日常の小さな意識改革と優しさの積み重ね」が解決につながると訴え、「自分にできることは何かを考え、一歩踏み出すことに大きな意味がある」と語った。

高校生の部では、富山国際大付属高（富山市）2年、新井彩生さんが最優秀賞を受賞した。幼少期から能登の海に親しみ、現在は富山県で初の「高校生ライフセーバー」として活動している。その経験から、水難事故を防ぐ安全教育や、海を環境破壊から守る必要があると論じ、「美しい海を次世代の子どもたちにつないでいく」と語った。

授賞式では、東北文教大短期大学部の元教授・阿部康子さんが講評を行い、「経験した身近なことを、世界平和につなげて語ってくれた。弁論とは、共感を求める働きかけであり、生き方の提案だ」と話した。